

世の方も入社していて、飛行機を購入する交渉をした副社長は日系の方でした。

### 順調に広がるリージョナル航空

この飛行機と出会ったことが、私がリージョナル航空に挑戦する大きなきっかけになりました。

それまで、地方を飛ばす飛行機はプロペラ機が多く、プロペラ機は成層圏より下を飛ぶので、天候に左右されやすく、揺れて乗り心地が悪かったのです。

1990年代に50人〜100人乗りのジェット機が登場すると、速度が早くなり、天候に左右されなくなり、一挙に人気が高まり、地方都市と地方都市を結ぶリージョナル航空の運行ができるようになりました。

日本でも、リージョナル航空のマーケットは順調に広がってきており、JALグループの(株)ジェイエア、日本エアコミューター(株)(JAC)、ANAグループのANAウイングス(株)とIBEXエアラインズ(株)が運行しています。

リージョナル航空は、アメリカ型とヨーロッパ型に分けられます。アメリカ型は、大都市のハブ空港から地方都市の空港へ飛ばす形。ヨーロッパはネットワーク型で、大都市間も地方都市間も結び、網の目が細かくなっています。日本はヨーロッパ型に近いと考えています。

### 地域社会の活性化に貢献したい

フジドリームエアラインズでは、常に改革に挑戦する若々しい精神をもって会

社をやっている、そして、安全で楽しい空の旅をつくらう、と社員に呼びかけています。まずは安全運航。そして、大手航空会社の飛ばないエリアを補充して、地方と地方をダイレクトに結び、地域社会の活性化に貢献することをミッションと考えています。

大手航空会社との競争はしませんが、コスト管理については、ローコストキャリア(ＬＣＣ)の座席管理システムを採り入れています。

パイロット、整備士は、自社で養成する努力をしています。地上のハンドリング業務もすべて自前でやっています、他のエアラインの仕事も受ける体制を整えています。

役員には、自衛隊のOBが2名、JALのOBが多数、参加しています。

本社は2つあり、発祥の地である清水に静岡本社、名古屋の小牧空港に名古屋本社を置いています。乗員、客室乗務員、整備士といった主力部隊は、名古屋に約300名がおります。牧之原市の坂口には、フライトシミュレーターを置いて、乗員の訓練施設と客室乗務員の訓練施設を作り、いろいろな訓練をしています。静岡空港と小牧空港には格納庫を用意して、整備の徹底を図っています。

路線は、名古屋から9路線、静岡から3路線、松本から2路線、新潟、山形と全部で16路線。1日に34便を飛ばしています。

小さな飛行機ですが、日本航空さん

や全日空さんと同じような手厚いサービスをお客様に提供していきます。リージョナル航空のお客様には、お孫さんにお会いに行くお年寄りや、お子さん連れのおいおかあさんが多いので、こういう方々に優しくできる航空会社でありたい。地域の皆様や地方自治体と手をとりにあつて、路線を育てていくことを社員に徹底しています。

我々は、いろいろな皆様に支えていただいています。シャトレレーゼさんにはお菓子を、原田製茶さんにはお茶を提供していただいています。タミヤさんには世界で一番精密な飛行機のプラモデルを作っていただいています。新聞は、静岡新聞をはじめ就航先の新聞を提供しています。

### チャーター便運航への取り組み

エンブレル機は、座席が76席〜84席というバス2台分の人数ですので、社員旅行などで使っていたことができません。地方の旅行会社でも小規模の旅行に利用できるのが、好評をいただいています。2009年にチャーター便を運航して以来、3073便が日本全国に飛んでいます。昨年は稚内・利尻島・礼文島に2万5千人のお客様をチャーターで送り、地元の皆様が大変喜んでいただきました。チャーター便運航をさらに広げていきたいと思っています。

### 若者が誇りをもてるまちづくり

私は、地方で若者が誇りを持って住

めるまちをつくるのが難しいことを痛感しています。東京と地方との文化的な格差は大きくなっている気がします。東京の周辺都市では、1時間以内に東京へ行けるので、個性のある文化が育ちません。静岡も同様に、個性も文化も感じられないまちになる恐れがあります。

我々がおつきあいさせていただいた松本、金沢、福岡は、それぞれ誇りをもった文化を抱えています。どうすれば独自の文化を育てられるのか。それは、いろいろな人たちと交流することに尽きるのではないかと。地方と地方の架け橋になるべく、我々のエアラインを育てていきたいと思っています。

